

エイム電子株式会社

エコアクション21環境活動レポート

2024年10月 ～ 2025年9月



発行日2025年10月14日

～目次～

■組織の概要	1
■対象範囲、レポートの対象期間及び発行日	1
■環境経営方針	2
■環境管理実施体制	3
■環境経営目標	4
■環境経営計画と実施状況評価	5
■環境経営目標の達成状況	6
■評価と取組み	7
■環境関連法規制の遵守状況	8
■代表者による全体評価と見直し	8



1.組織の概要

1)事業所名及び代表者名

エイム電子株式会社 代表取締役 中山栄志

2)所在地

本 社 : 〒252-0327 神奈川県相模原市南区磯部1353
本社別棟 : 〒252-0327 神奈川県相模原市南区磯部1354-4
物流センター: 〒252-0336 神奈川県相模原市南区当麻1107-20
R&Dセンター: 〒252-0327 神奈川県相模原市南区磯部1335-1

3)環境管理者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者: 総務部 多田光輝
担 当 者 : EA21事務局 多田光輝
連 絡 先 : 電話 046-253-9881
FAX 046-252-7572

4)事業の活動内容

認証・登録対象活動
ネットワーク用、AV用ケーブル及び周辺機器の製造・輸入販売

5)事業の規模

活動規模	単 位	R4年度	R5年度	R6年度
売上	百万円	1,290	1,280	1,310
従業員	人	75	76	76
床面積	m ²	1178	1,178	1,178

2.対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

1)認証・登録範囲

■全組織・全活動
組織: 本社・本社別棟、物流センター、R&Dセンター
活動: ネットワーク用、AV用ケーブル及び周辺機器の製造・輸入販売

2)レポートの対象期間及び発行日

期 間: 令和6年10月1日～令和7年9月30日

発行日: 令和7年10月 14日

エイム電子環境方針

[理念]

当社は経営理念に「わたし達は、地球環境と社会に貢献します」を掲げ、地球環境問題への取り組みが企業経営における重要課題の一つであると認識し、地球環境に配慮した事業活動である、通信用ケーブル及び周辺機器の製造販売に積極的に取り組んで参ります。

[方針]

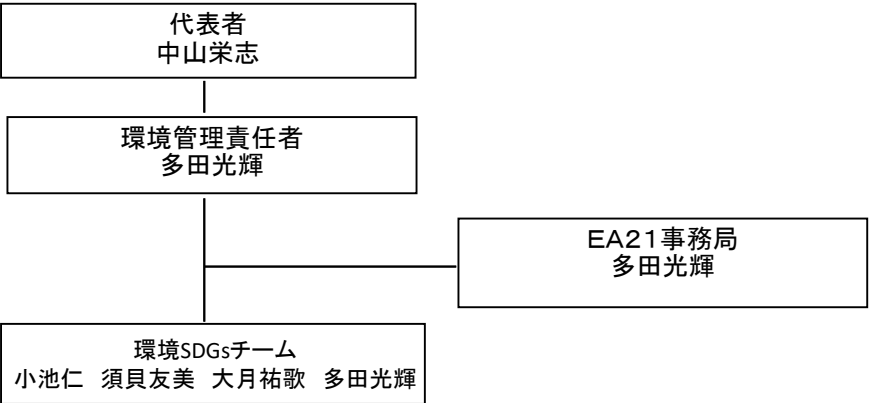
- 1) 事業活動の全域で省エネルギー、廃棄物削減、節水の推進に努めます。
- 2) 環境保全に配慮した製品の製造及び資材の購入に努めます。
- 3) 環境マネジメントシステムの継続的な維持向上に努めます。
- 4) 当社の活動に係わる環境関連法規、その他の要求事項を遵守します。
- 5) 環境方針を全従業員へ周知させるとともに環境教育及び啓発に努めます。

令和6年10月1日
エイム電子株式会社
代表取締役
中山栄志

4. 環境管理実施体制

作成 2025/10/1

承認	作成
中山	多田



	責任および権限
代表取締役社長	1. 環境管理責任者の任命 2. 環境方針の制定 3. 環境経営システムの実施および管理に必要な資源の準備 4. 環境経営システムの取り組み状況の評価、見直し、必要な指示を行う。 5. 課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	1. 環境経営システムの構築、維持。 2. 社長への環境経営システムの実施状況報告 3. 環境経営システムの実施、維持、継続的改善を行う 4. それぞれの業務・役割に応じ、必要な教育訓練を適切に計画・実施 5. 環境関連文書及び記録の作成・整理
事務局	1. 環境関連データの集計・管理、社内への情報提供 2. 環境管理責任者を補佐しEA21の取組みを推進する 3. 対外連絡窓口
チームメンバー	1. 環境目標達成のために1年間活動を行い、成果を報告する。 2. 環境上の緊急事態への準備及び対応
従業員	1. 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚。 2. 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

(回覧ルート)

社長→環境管理責任者

改版履歴

版数	改定理由	改定月日	承認	作成者
1.1	フロア別責任者制からチーム制に移行	2011.10.1	社長	松島
1.2	事務局の責任および権限を追加	2012.11.1	社長	松島
1.3	チーム構成を変更	2015.10.1	社長	松島
1.4	代表者を変更、チーム構成を変更	2016.10.1	社長	松島
1.5	EA21事務局担当者を変更	2017.10.1	社長	松島
1.6	チーム構成を変更	2022.10.1	社長	松島
1.7	環境管理責任者を変更 環境SDGsチームメンバーを記載	2024.10.1	社長	西田
1.8	環境管理責任者を変更 EA21事務局を変更 環境SDGsチームメンバーを変更	2025.10.1	社長	多田

5.環境経営目標

項目			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R6年度
			実績 (基準値)	目標	目標	目標	目標	
二酸化炭素排出量削減(kg-CO2)			7,479	7,000	6,950	6,900	6,850	7,241
		基準年比(%)	－	93.6%	92.9%	92.3%	91.6%	96.8%
二酸化炭素排出量削減	本社電力(kwh)		40,213	40,000	39,800	39,601	39,400	43,348
		基準年比(%)	－	99.5%	99.0%	98.5%	98.0%	107.8%
	物流C電力(kwh)		37,199	37,000	36,815	36,631	36,500	38,144
		基準年比(%)	－	99.5%	99.0%	98.5%	98.1%	102.5%
	本社別棟電力(kwh)		8,760	8,700	8,657	8,613	8,500	9,333
		基準年比(%)	－	99.3%	98.8%	98.3%	97.0%	106.5%
	R&Dセンター電力(kwh)		9,544	9,400	9,353	9,306	9,200	11,028
		基準年比(%)	－	98.5%	98.0%	97.5%	96.4%	115.5%
	化石燃料	ガソリン燃費(km/ℓ)	15.97	16.00	16.16	16.32	16.40	17.76
		基準年比(%)	－	100.2%	101.2%	102.2%	102.7%	111.2%
排水量削減(m³/人)			5.41	5.20	5.15	5.10	5.05	5.82
		基準年比(%)	－	96.1%	95.2%	94.2%	93.3%	107.6%
コピー紙購入量削減(kg)			710	680	677	673	670	557.82
		基準年比(%)	－	95.8%	95.3%	94.8%	94.4%	78.6%
一般廃棄物排出量削減(kg)			4,402	4,300	4,279	4,257	4,240	3,795
		基準年比(%)	－	97.7%	97.2%	96.7%	96.3%	86.2%
産業廃棄物リサイクル率/ (H28～)産業廃棄物の削減 産業廃棄物の適正管理			99%	99%	99%	99%	99%	100%
環境に配慮した製品作り 及び資材の購入			RoHS2比率 70%	RoHS2比率 75%	RoHS2比率 80%	RoHS2比率 84%	RoHS2比率 86%	RoHS2比率 85%
防災対策			実施	防災・災害 対策強化	防災・災害 対策強化	防災・災害 対策強化	防災・災害 対策強化	防災・災害 対策強化

※ 化学物質の使用無し。

※ 購入電力は、すべて再生エネルギー起因電力を使用しており、CO2排出係数は0です。

※ 表中の電力は購入量を記載。使用電力量としては、自社設置の太陽光発電量が加算されます。

※ リサイクル率は重量計測で排出する産業廃棄物で計算します。(99%以上が該当)

※ 産廃の適正管理＝産業廃棄物管理票交付、管理及び行政への報告、
産業廃棄物委託契約書の締結、産業廃棄物排出量(リサイクル量)の把握

6.環境経営計画と実施状況評価

R6年度環境経営計画・実施状況評価

基準年度：R4年度

実施状況／評価 ○：実施 △：一部実施 ×：未実施
具体的なアクションは対象期間を通じて行う。

NO.	項目	年度目標 (R6年度)	具体的なアクション	責任者	実施状況	評価
1	減量の削減	7,479kg-Co2 ↓ 6,950kg-Co2 7.1%削減	下記、「1.2」を参照	多田	下記「1.2」を参照	△
1.1	電力使用量の削減	95,716kwh ↓ 94,625kwh 1.1%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・クールビズの励行、卓上ファンの配布 ・ウォームビズの励行、足温器の配布 ・エアコンの定期清掃による効率アップ ・待機電力カットの強化 ・省エネ啓蒙コラムのメール配信 ・電力使用量推移の掲示 ・エアコン温度設定の節電メッセージ表示 ・エアコン消し忘れタイマーの設定 	多田	○ ○ ○ △ × △ ○ ○	△
1.2	自動車燃費の向上	15.97km/L ↓ 16.16km/L 1.2%向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッド車両 優先的利用の周知 ・運転時の排気ガス削減方法を社内に告知 	多田	○ ×	△
2	排水量の削減 (従業員1人あたりの排水量)	5.41㎡/人 ↓ 5.15㎡/人 4.8%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・節水ポスターの見直し ・社内へ節水啓蒙のコラムをメール配信 	多田	△ ×	△
3	コピー紙購入量削減	710kg ↓ 677kg 4.7%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・裏紙利用の促進、ルール再確認 ・社内書類のペーパーレス、オンライン化促進 	多田	× ○	△
4	一般廃棄物排出量削減	4,402kg ↓ 4,279kg 2.8%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・一般ゴミの分別の徹底 ・廃棄品の定期処理 ・ゴミ削減コラムのメール配信 	多田	○ ○ ○	○
5	産業廃棄物リサイクル率 (産業廃棄物の削減と適正管理)	適正管理の実施 リサイクル率99%を目標とする	<ul style="list-style-type: none"> ・マニフェスト管理票受領 ・行政への報告 ・委託契約書の締結 ・排出量の把握 	多田	○ ○ ○ ○	○
6	環境に配慮した製品作り 及び資材の購入	RoHS2比率70% ↓ RoHS2比率80%	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客要望を中心に、RoHS2指令への対応を推進 ・RoHS2非対応、不明在庫品は順次入替え 	野村 (購買)	○ ○	○
7	防災対策	防災・災害対策の強化 (目標管理無し)	<ul style="list-style-type: none"> ・防災グッズ／非常食・水の点検、充実化 ・避難訓練の実施 ・安否確認メールシステムの運用 ・帰宅困難者の洗い出し 	多田	○ ○ ○ ○	○

7.環境経営目標の達成状況

今年度の環境保全活動が終了し、社長と環境管理責任者が環境への取組結果の評価を行った。
評価結果は次の通りである。

No.	推進項目	単位	責任者	半期目標	半期実績	評価	半期挽回策	年度目標	年度実績	評価
1	二酸化炭素排出量削減	kgCO2	多田	3,475	3,628	△	前年比マイナスで推移 排出量を注視し、必要 に応じて注意喚起	6,950	7,241	×
1-①	二酸化炭素排出量削減 本社電力	kwh	多田	19,900	21,794	△	前年比マイナスで推移 使用量を注視し、必要 に応じて注意喚起	39,800	43,348	×
1-②	二酸化炭素排出量削減 物流C電力	kwh	多田	18,408	18,430	△	前年比マイナスで推移 使用量を注視し、必要 に応じて注意喚起	36,815	38,144	×
1-③	二酸化炭素排出量削減 本社別棟電力	kwh	多田	4,329	4,686	×	前年比103% 使用量を注視し、注意 喚起	8,657	9,333	×
1-④	二酸化炭素排出量削減 R&Dセンター電力	kwh	多田	4,677	6,227	×	前年比107% 使用量を注視し、注意 喚起	9,353	11,028	×
1-⑤	二酸化炭素排出量削減 ガソリン燃費	km/ℓ	多田	16.16	17.08	○	継続	16.16	17.76	○
2	排水量削減	m3/人	多田	2.58	2.94	×	全体的な注意喚起	5.15	5.82	×
3	コピー紙購入量削減	kg	多田	339	290	○	継続	677	558	○
4	一般廃棄物排出量削減	kg	多田	2140	1,913	○	継続	4,279	3,795	○
5	産業廃棄物リサイクル率 産業廃棄物の削減/適正管理		多田	99%	100%	○	継続	99%	100%	○
6	環境に配慮した製品作り 及び資材の購入		野村	RoHS2比率 80%	対応製品への切替を 実施中	○	継続	RoHS2比率 80%	RoHS2比率 85%	○
7	防災対策		多田	防災・災害後 対策強化	防災・災害 対策強化	○	継続	防災・災害後 対策強化	シェイクアウト訓練実 施	○

※半期目標は年度目標の1/2とした
 ※自動車燃費の計算は以下による
 給油量(ガソリン(営業車のみ)):229.51ℓ、走行距離:4077km
 ※排水量の計算は以下による。
 水使用量:442.5m3、人数:76人

8.環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営目標及び取組内容

【電力使用量】

昨年比98.8%となった。

基準年とデータを比較すると春・秋にあたる月の使用量が

118%となっており、顕著な増加がみられる。

基準年の気温と比べ、春は寒く秋は暑くなっているため、

エアコンの稼働日数が増えていることが原因として考えられる。

次年度の環境経営目標は今年度の実績をもとに設定する。

本社については導入から10年～20年経過したカセットエアコンの入れ替えを次年度に検討しており、設備の省エネ化による削減が期待できる。

【ガソリン燃費】

17.76km/ℓとなった。

カローラ(EV車・今期燃費21.6km/ℓ)の利用がサクシード(今期燃費13.89km/ℓ)比

155%となり、燃費に良い影響を及ぼした。

サクシードの方がカローラに比べ積載量が多いため、やむを得ない場合もあるが、

カローラの利用を推奨することでさらなる燃費の向上を進めていきたい。

【排水量】

1名あたりの排水量は前年比約1%減となった。

前年は物流センターの排水量がトイレタンクの不具合により大きく増加していたため、

前年と排水量が同等になってしまったことは反省点として上げられる。

特に技術棟においては前年比10%以上増加しているため、

節水について啓蒙を実施する。

【コピー紙購入量】

557.82kgとなった。

各部門において紙出力していた内容をデータ化する等ペーパーレスの試みが

進んでおり、各所で紙使用量の削減に成功していることがこの結果に繋がった。

次年度以降もペーパーレス化への改善を全社的に推進する。

【一般廃棄物排出量】

前年比約10.7%減となった。

環境SDGsチームからゴミの削減に関するメールを出し、フードロス・食品ロス対策の記事を共有するなどしたことで

ゴミ問題についての関心が高まった事が要因の一つと考えられる。

また、ペットボトルの蓋の分別、持ち込みの推進のほか、防災BCPチームと連携し、期限の近い備蓄食品を

フードバンクに寄付するなどの活動を行った。

今後も廃棄物の削減を推進していく。

【産業廃棄物リサイクル率】

当社の産業廃棄物は再生可能品は総て分別し、リサイクルしている。

●今後も分別の徹底を続けます。

【環境に配慮した製品作り】

2019年7月のRoHS2指令の施行に伴い、対応製品への切替を順次実施。

●在庫品の内、85%がRoHS2対応へ切替済。

○代表者の前期指摘事項に対する取組について

【安否確認システムについて】

安否確認のテストを行った。

安否確認システムに登録しているアドレスが古く、受信できなかった者が

1名いたものの、その他全員から回答を得ることができた。

安否確認システムに予備のアドレスを登録することが可能なため、

緊急時に連絡がつくよう複数アドレスの登録や、

登録されているアドレスの更新を呼びかけていく。

次年度の環境経営目標

項目		R4・R6年度	R7年度	R8年度
		基準値	目標	目標
二酸化炭素排出量削減(kg-CO2)		7,241	6,900	6,850
前年比(%)		-	-4.9%	-1.0%
二酸化炭素排出量削減	本社電力(kwh)	43,348	42,930	42,501
	前年比(%)	-	-1.0%	-1.0%
	物流C電力(kwh)	38,144	37,750	37,373
	前年比(%)	-	-1.0%	-1.0%
	本社別棟電力(kwh)	9,333	9,240	9,148
	前年比(%)	-	-1.0%	-1.0%
	R&Dセンター電力(kwh)	11,028	10,920	10,811
	前年比(%)	-	-1.0%	-1.0%
化石燃料	ガソリン燃費(km/ℓ)	17.76	16.32	16.40
	前年比(%)	-	-8.8%	1.5%
排水量削減(m³/人)		5.41	5.10	5.05
前年比(%)		-	-6.2%	-1.0%
コピー紙購入量削減(kg)		710	673	670
前年比(%)		-	-5.5%	-1.5%
一般廃棄物排出量削減(kg)		4,402	4,257	4,240
前年比(%)		-	-3.4%	-1.2%
産業廃棄物リサイクル率/(H28～)産業廃棄物の削減 産業廃棄物の適正管理		99%	99%	99%
環境に配慮した製品作り 及び資材の購入		RoHS2比率 70%	RoHS2比率 84%	RoHS2比率 86%
防災対策		防災・災害 対策強化	防災・災害後 対策強化	防災・災害後 対策強化

※電力使用量の目標を今年度の実績をもとに再設定する。
 ※現状の中期計画同様、令和8年度までの計画とする。
 ※化学物質の使用無し。
 ※購入電力は、すべて再生エネルギー起因電力を使用しており、CO2排出係数は0です。
 ※表中の電力は購入量を記載。使用電力量としては、自社設置の太陽光発電量が加算されます。
 ※リサイクル率は重量計測で排出する産業廃棄物で計算します。(99%以上が該当)
 ※産廃の適性管理＝産業廃棄物管理票交付、管理及び行政への報告、
 産業廃棄物委託契約書の締結、産業廃棄物排出量(リサイクル量)の把握

9.環境関連法規制の遵守状況

内 容	過去3年から現在までの結果
遵守状況の確認 及び評価結果 法律違反の有無	環境関連法規等の遵守状況及び違反、訴訟等の有無については、受審事業者に適用される主な環境関連法規等の一覧及びそれらの遵守状況を確認した結果として、環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘はありません。
訴訟の有無	なし

適用環境関連法規等	適用される事項 (施設、物質、事業活動等)	確認	確認日
廃棄物処理法	一般廃棄物の適正処理、産業廃棄物 (金属クズ、廃プラ)マニフェストの交付	○	2025/10/1
容器包装リサイクル法	容器包装廃棄物の適正処理	○	2025/10/1
家電リサイクル法	特定家庭用機器の適正処理	○	2025/10/1
小型家電リサイクル法	使用済み小型電子機器の適正処理	○	2025/10/1
フロン排出抑制法	第一種特定製品の点検、管理 冷媒用フロンの適正回収、破壊の措置	○	2025/10/1

10.代表者による評価と見直し

環境目標の達成状況について

猛暑が続いた中、電力使用量が昨年より少なくなった点は良い結果と感じている。
気温・設備など、状況が変わることで令和4年度に立てた目標と乖離が生まれているので
来期は今期の実績を基に目標を設定し直してほしい。

コピー用紙についてもPDF化など、減らす努力が成果として出てきていて良い。

一般廃棄物の排出量が減少しているが、要因が分からない。
要因の分析を行うためにまずは各場所でどのくらい排出されているかを確認してほしい。

来期への取り組みについて

更なる二酸化炭素の排出減に向けて、
森林をつくること、配送車の電動化の2点について
可能性として検討してほしい。